



第437号 平成26年12月1日

発行所 京都市学校医会

京都市中京区間之町通竹屋町下ル

楠町601-1 こどもみらい館 2階

TEL (075) 256-0351

FAX (075) 241-3568

発行人 林 鐘 声

第45回全国学校保健・学校医大会

会 長 林 鐘 声

日本医師会主催、石川県医師会が担当して11月8日（土）、金沢市で開催されました。主題は「子供たちの明るい未来のために、学校医の新たな役割を考える」でした。先立つ6日、7日には、第64回全国学校保健研究大会が同地で行なわれています。教育委員会、学校保健会、保健主事、養護教諭、学校三師が参加し、文科省、日本学校保健会が主催するものでした。ここで、京都市学校医会の長村吉朗元会長が文部科学大臣表彰を受けました。当日、金沢へ向うサンダーバード号は先行電車が敦賀の先で故障し立往生したため、1時間30分ほどの遅れが生ずるというエピソードがありました。それでも遅れずに会場に着いたのは、準備のよい長村先生の面目躍如というところでしょう。お祝いも兼ねて一文を依頼しておりますので一読下さい。

8日の学校医大会は、朝に5分科会、昼には、日本医師会表彰、その後シンポジウム、特別講演が行なわれました。第1分科会では、顧問の川勝秀一先生が京都市学校検尿マニュアルによる検尿結果、10年間のまとめを発表しています。第1分科会のことは別に報告がありますが、一点だけ申し上げておきたい演題がありました。平成20年から24年の5年間で、学校現場で1068件の心肺蘇生があったというのが全国の教育委員会へのアンケート結果から明らかとなりました。うち、522件はAED実施、一方、AEDのパッドは貼ったものの通電しなかった、あるいは心肺蘇生のみでAED未使用は合わせて546件ということでした。AED実施例でみた時、基礎疾患を有していたり、健康診断で異常を指摘されていた例が約40%に対し、頭部打撲や溺水などの外傷によるもの17%、今まで健康とされ外傷もなしが29.5%と、予期しない対象者への実施が約半分を占

めていました。学校現場でエピペンを使う相手は判っていますが、AEDはそうでないことが多く、しかも使用機会もより多いようです。エピペン講習のみならず、AED講習も繰り返し行い、習熟しておくべきことを示していました。

分科会、シンポジウム、特別講演については、各々、別に報告がありますので、お目通し下さい。

表彰式の時、時間に余裕がありましたので今までの開催都道府県を調べたところ、秋田県のように2回している県がある一方で、三重県、愛媛県、鹿児島県はまだ担当していないことが判りました。次回は平成27年12月5日、愛媛県松山市での開催と決まりました。

次に当日行なわれましたシンポジウムについて報告します。テーマは「保健教育を活かした学校保健」です。

基調講演『学校保健の動向と課題』

講師：石川県立中央病院 副院長

いしかわ総合母子医療センター長 久保 実
シンポジウム

①『効果的な喫煙防止教育の進め方』

森田医院 院長 森田 正人

②『産婦人科勤務医が学校医に任命されるまでの道のり』 市立輪島病院 産婦人科 青山 航也

③『学校で起こるスポーツ障害とその予防
～スポーツドクターから学ぶ現場の初期対応～』

木島病院 整形外科 北岡 克彦

④『学校における食育の推進』

宝達志水町立押水中学校栄養教諭 北出 宏予
基調講演は、学校医は健康教育をより積極的に行うことがこれからの基本となるとして、健康管理の動向を感染症、アレルギー疾患、運動能力の二極化、

食育、性教育、喫煙、薬物乱用防止教育、エピペン、AEDなどについて網羅的に示し、各論につなげるものでした。

①金沢市では、平成19年度より83の小中学校の喫煙防止教育に取り組み始め、平成23年度以降は100%実施となったようです。最初から吸わないのが一番というのが教育のポイントとして、子供同士で議論しながら意見をまとめるピアラーニングという行動科学的手法が講演形式より有用として紹介していました。小・中・高・大学と4回は教育が必要であり、防止教育とタバコを吸っている生徒への禁煙指導は別に行なわねばならないとしていました。受動喫煙防止までは時間的制約のため、手が回らないことも問題のようです。

②輪島市で唯一人の産婦人科医が、学校現場で性教育や思春期医療に携りたいとしての活動報告でした。本人は学校医を望んでいるものの、公務員であることから校医兼職は認めてもらえてないということでしたが、京都市でこのような方がいらっしゃるなら、喜んで推挙したいものです。地域の個別の理由、あるいは何か他の理由があるのでしょうか、その点の明示がなかったせいで、問題のありがたが判りづらい発表でした。

③予防と初期治療の大切さを訴えていました。障害の程度は軽いものの頻度の多い足関節捻挫を取り

上げ、現場での初期治療のRICE（Rest, Icing, Compression, Elevation）療法の実際を示し有益でした。スポーツ復帰のタイミングは、痛みを目安とするのではなく、可動域とバランス感覚の改善をもって再開させないと再発を繰り返すことになることと警鐘していました。もう1つは前十字靭帯損傷はバスケットボール、ハンドボール、バレーボールなどのジャンプ時の着地やフェイントなどで生ずることが多く、女子に多いことを示し、その防止には、膝の曲げ方、着地時に後体重とならないように指導することが重要なようでした。学校現場での予防教育の実践が次の課題として見えてくる発表でした。

④学校における食育の推進の中核的役割を担う栄養教諭制度が制定されてもうすぐ10年となります。郷土の伝統料理、ここでは白和えをとり挙げていましたが、それを調理実習し、給食献立として提供することで、地域の味の良さ、伝統を伝えていく活動や、また、養護教諭と連携して、肥満、やせ、不定愁訴、貧血、食物アレルギーなどの健康課題をもつ児童・生徒、その保護者に適切な食事内容、生活習慣を個別的に取り組んでいることを紹介していました。養護教諭との連携したきめ細かい食育の指導ができることから、給食の食物アレルギー対策を行なうためには栄養教諭の配置充実が望まれます。

第45回全国学校保健・学校医大会

第1分科会の様子

福西小学校校医 奥村正治

午前中の第1分科会は、「学校保健・安全に関する諸問題の取り組み」と言う事で、全部で13演題になっており、例年と比較すると演題数が多く、一演題発表6分間と言う短い時間となっておりました。一題ごとに質疑応答が良いのですが、時間の関係で同じ様な話題を1くりにし、発表が終った時点で、質疑という事になった。A) グループは学校医の在り方や、学校医部会の在り方等④、B) グループは心臓検診等のグループ⑤、C) グループは学校検尿のグループ③、D) はインフルエンザ①、に分かれました。(○数は演題数)

A) グループでは、発表者の関係する医師会と言うか、学校医会と言うか、組織の案内や説明が中心

で、あまり参考にはなりませんでした。その中では、幼稚園・保育園・学校等にも母子手帳の活用と言う所は、参考になりました。

B) グループも、若年者心疾患・生活習慣病対策協議会の経過と言う事で、会の紹介のみですと言う演題もあり、もう少し内容を考慮し、演題募集する必要がある様に思われた。心臓検診に関しては、京都方式が担当の先生方には大変御苦労をかけているが、一段と進んだ方式と思われた。

C) の検尿では、京都より川勝秀一先生が、「検尿結果10年のまとめ」を御発表いただいた。ここでやっと演題らしい発表となった様な気がしました。

D) のインフルエンザは一題であり、少ない演題

と言う事もありますが、解熱後、2日間たてば登校は良いのでは？と言う結論だったが、学校の記録を元に、あとおい調査と言う話してもあり、予防接種をしたか？否か？等の区別もなく、参考に出来るかな？と言う話題でした。

他の分科会も第一分科会と同様、演題数が多く、全体の協議会の時間配分を一考する必要が出て来た

のでは？と思われる午前中でありました。具体的な抄録は、学校医会の事務局に置いておきます。又、本年より、学会のホームページにて公開の様です。アドレスは、

<http://www.ishikawa.med.or.jp/school-45/>

ID : school45

パスワード : kanazawa です。

第2分科会報告

東山泉小学校医 長 村 吉 朗

金沢市で開催されました第45回全国学校保健・学校医大会（第2分科会）の概要を報告いたします。

第2分科会

「からだ・こころ2」スポーツ障害・生活習慣

座長 石川県医師会理事 高木 充彦
司会 石川県医師会理事 勝木 保夫

1. 運動器検診の一つの試み
富山県医師会 道振 義治
2. 絵を中心とした新しい問診票を使った運動器検診の経験
岐阜県医師会 竹田 賢一
3. 小学生の身体活動状況と体組成・骨密度・体力値との関連
三重県医師会 富樫 健
4. 豊島区立中学校における骨密度測定事業について -第3報-
東京都医師会 猪狩 和子
5. 運動器機能不全を視点としたケガや運動器傷害の予防
埼玉県医師会 柴田 輝明
6. 小学生における有痛性分裂膝蓋骨の治療経験
広島県医師会 松本 治之
7. 成長期のスポーツ障害、外傷について
～特に注意すべきケガ～

愛知県医師会 井戸田 仁

8. 小児生活習慣病予防健診について -BDHQ（簡易型自記式食事歴法質問票）による食事内容の検討-
東京都医師会 高野 英昭
9. 生活習慣病予防検診 そのゴールは
東京都医師会 伊谷 昭幸
10. 全小4、中1を対象とした高岡市および富山市小児生活習慣病健診における食後脂質値の検討
富山県医師会 宮崎 あゆみ
11. かかみがはらStudy-各務原市における小児生活習慣病に対する取り組み-
岐阜県医師会 小林 由季
12. 横手市小児生活習慣病予防対策委員会の取り組み -小学1年生の保護者を対象とした食習慣調査及び家族食事アンケート結果-
秋田県医師会 福嶋 孝子

以上が当日の演題ですが、平成28年度より導入される運動器検診につき多くの学校医の関心と試みが報告されました。

第3分科会 メンタルヘルス・健康教育

西京高等学校医 杉 本 英 造

1. 茨城県における思春期保健活動～地域相談活動と性教育講師養成の取り組み～
2. 不登校の予防（第3報）
-不登校予防ソフトによる連携の強化-
3. 学校メンタルヘルスマネジメント用フォーマットの開発とその実際の使用
4. 発達障害を抱える子どもたちへの技術的対応：学校との連携も含めて
5. 中学生の電子メディア接触と生活リズムについて
6. 健康教育の基本は防煙教育
7. 埼玉県熊谷市における受動喫煙健診
-7年間の成績総括-

8. 成人式における喫煙防止の呼びかけと喫煙状態に関する調査報告
—学校医と教育委員会の協働事業—
9. 西宮市における幼稚園・小中学校・高校のエピペン保有と対応・対策について
10. 東京都多摩市立小中学校における食物アレルギー児への対応の現状と課題
11. 白山市内中学校生徒の貧血等血液検査結果
18年間の総括
12. 中学生における麻疹、風疹、水痘、ムンプスの血清抗体の検討
13. 麻しん、風しん、ムンプス抗体保有率15年間の推移 一広島県安佐地区同一3小学校6学年の調査より一

1～4はメンタルヘルスにおける取り組みを紹介。ソフトやフォーマットを開発し、小・中・高校へ縦断・横断的に連携を強化し、支援体制の学校差を解消する。4は発達障害への対応には担任教諭の負担軽減のためトレーニングが必要。5はスマートフォンの所有率が高くなると心身への負の影響を懸念。6～8は禁煙への取り組み。7は公費負担で尿中コチニン濃度を測定し家庭内での受動喫煙の状況調査。両親が喫煙している家庭と同等に母親が喫煙している家庭でコチニン濃度が相関するのは興味ある結果であった。9・10はエピペンの使用状況について。11は運動部所属部員のほうが鉄欠乏性貧血の傾向にあり注意。12・13は小6から中1にかけて麻疹・風疹抗体価が下がり中2以後上昇。3期目の接種が重要。

第7回 常任理事会

平成26年12月6日
於 事務局

出席者 林会長、井本副会長、杉本専務理事、山内・各常任理事、佐野眼科学校医会副会長、鈴木耳鼻咽喉科専門医会理事、奥村副議長、長村監事

・会長挨拶

<報告事項>

1. 色覚相談 11/4, 11/11, 11/18, 11/25, 12/2
2. 第64回 全国学校保健研究大会 11/6～11/7
於：金沢市
3. 第45回 全国学校保健・学校医大会 11/8
於：金沢市
4. 精神衛生研究会 11/13
5. 腎臓相談 11/18
6. 京都市学校保健研究発表会及び表彰式 11/15
於：京都市総合教育センター
7. 京都市学校保健関係者会表彰祝賀会・懇親会
11/15 於：京都ロイヤルホテル&スパ
8. ご勇退後任校医
9. その他

<協議事項>

1. 第29回 京都市小学校「大文字駅伝」大会出務医について 27年2/8
2. 第29回 京都市小学校「大文字駅伝」大会事前検診について 12/13, 12/20
3. 新任校医研修会について
4. 校医・小児科医感染症講演会講師について
5. 平成27年度 京都市学校医会総会講師について
27年4/18
6. 就学時健診について
7. 日本外来小児科学会 第15回 園・学校保健勉強会後援について 27年3/28
8. 京都市中学生体育大会ラグビーフットボール秋季大会について 27年2/14, 2/22
9. 第63回 近畿医師会連合学校医研究協議会総会演題について 27年3/1
10. 学校生活管理指導表（食物アレルギー用）作成につき教育委員会と協議

<関連学会・各種協議>

1. 色覚相談 12/9, 12/16, 27年1/6
2. 精神衛生研究会 12/11, 27年1/8
3. 京都市小学校「大文字駅伝」大会事前健康診断
12/13, 12/20
4. 第8回常任理事会兼新年会 27年1/10
17:30～理事会, 18:30～新年会
5. その他